

# 気象キャスターが解説! 天気のみカタ 大雨シーズンに備えて

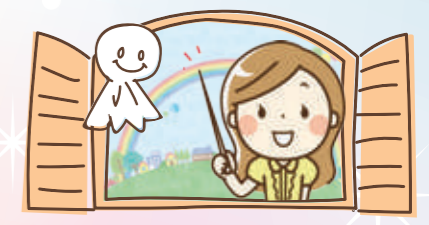
写真撮影：鈴木智恵



雨の日も目を楽しませてくれるアジサイ

本格的な雨の季節が到来し、色鮮やかなアジサイが目を楽しませてくれますね。日本は世界有数の雨の多い国ですが、私が住む長野県の長野盆地や上田・佐久盆地は、北海道東部や瀬戸内海と並び、年間降水量が1500mm以下の雨の少ない地域です。海から遠く、周囲を3000m級の山々に囲まれて台風や低気圧、前線の影響を受けにくい内陸性気候の特徴があるのです。このためか、長野に来た当初、「長野は大雨が降らない」「アルプスの山が台風から守ってくれる」という声を多く聞き、衝撃を受けたのを覚えています。

そんな長野には、武田信玄と上杉謙信の合戦でおなじみの川中島をはじめ、青木島、網島、丹



すずき ちえ 鈴木 智恵

気象予報士・防災士  
SDG sアドバイザー  
健康気象アドバイザー  
FM 岩手のアナウンサー、パーソナリティから気象キャスターに。  
NHK 仙台放送局、東北放送などを経て、現在はテレビ信州の「ゆうがた get!」[news every.] で信州の天気をお伝えしながら、小学校の出前授業なども行っています。  
趣味は写真を撮ること。



防災さんぽで見つけた過去の洪水を教えてくれる表示

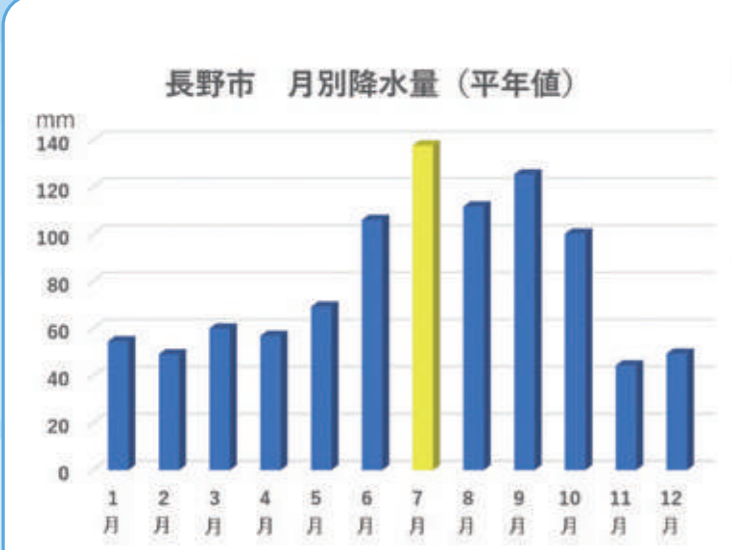
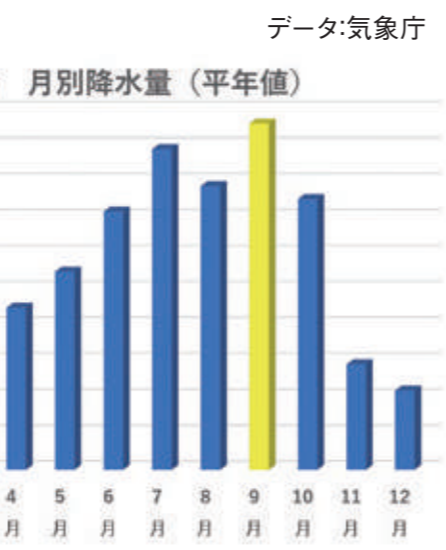
なりました。皆さんは大雨が予想されるとき、いつ、どのタイミングで避難しますか？

岡谷市が土石流災害の直後に実施した「避難情報と避難行動に係る市民アンケート」によると、「高齢者等避難、避難指示」が発表された地域に住む方は、避難情報の警戒レベル3にあたる「高齢者等避難」や警戒レベル4全員避難の「避難指示」について、およそ6割の方が発表を知っていたにも関わらず、避難行動を起こしたのは7.6%のみ。9割を超える方は行動を起こさなかった。理由は「自分に被害が及ぶとは思定しなかった」「外に出るの避難が危険」「周りの人たちが避難していなかった」「雨がたいしたことではないと思った」など。また、実際に避難した方について避難したかを聞くと、「避難指示の発令後」が42.9%。主な理由は、「雨が降り続いてい



タチアオイは梅雨予報士!?

が発表。また、昨年は8月9月と局地的に積乱雲が発達。土石流災害が相次ぎ、長野県岡谷市では母子3人が犠牲に



西日本、東日本は梅雨後半に、北日本は秋雨や台風シーズンに降水量が増加するところが多いです。あなたの地域はどうでしょう？



宮城県角田市。阿武隈川のすぐそばに住む方の自宅には木の舟が。

て不安や危険を感じた」「避難指示が発令された」などで、中には「平屋で垂直避難が困難」「サイレン音が聞こえた」「県外の子どもの連絡」の声もありました。

このアンケート結果を見た際、同じような声を宮城県丸森町や角田市で聞いたことを思い出しました。そう、令和元年東日本台風で阿武隈川の支流が氾濫した直後のことです。「水害と隣り合わせの町だけど、前もっての避難は難しいんだ」と。

ひとは、異常な事態に陥っても自分は「大したことではない」と考えてしまう正常性バイアスがあるため、避難が手遅れになることが多々あります。それを踏まえた上で、自分の身は自分で守る。我がこと意識を高めて、率先して避難。日ごろから家のまわりには、どんな所でどんなリスクがあるのか？前もって防災さんぽをしておきましょう。ご家族で「マイ・タイムライン」を作成し、見えるところに貼っておくのもおすすめです。そして、天気予報をこまめに確認。いつ、どの情報が出たら避難するのか知っておく必要も。気象キャスターが「大気の状態が不安定」とか「梅雨前線+台風」「暖かく湿った空気」「上空に寒気」「大雨警報が発表される可能性」「土砂災害警戒情報」「記録的短時間大雨情報」などキーワードを発していたら、さあ、あなたのアンテナ



普段は穏やかで恵みを与えてくれる川も、大雨で表情が一変します。  
【長野県生坂村 麻績川 (信濃川水系) にて】



「大気の状態不安定」はカミナリ接近のキーワード。落雷、突風の恐れも。安全な場所で身を守ろう。

でした。今年もこれからが大雨シーズンの本番です。天気上手は暮らし上手、防災上手で過ごしましょう。